感染症対策・調査センターだより

2026(令和8)年11月2日　第18号

編集発行
名古屋市保健所
感染症対策・調査センター
〒463-8585
名古屋市守山区桜坂四丁目207番地
電話 737-3712　FAX 736-1102
Mail a7373711-07@kenkofukushi.city.nagoya.lg.jp

ホームページ　X(旧Twitter)　YouTube

ペットとマダニ媒介感染症

草むらややぶの中を歩くと、犬や猫にマダニがつくことがあります。マダニの中には病気の原因となるウイルスなどを持つものがおり、飼い主にも感染するおそれがあります。特に、SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は重症化することがあるため、十分な注意が必要です。

ＳＦＴＳってどんな病気？



SFTSウイルスによる感染症で、マダニにより媒介されます。
ヒトの主な初期症状は、発熱、全身倦怠感、消化器症状（食欲不振、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛）で、重症化し死亡することもあります。

気をつける場所は？



下草が生い茂った道や、やぶの中はマダニが潜みやすい場所です。
野生動物が住んでいそうな場所の近くは注意が必要です。

お散歩から帰ったら･･･





お散歩などの外出後はペットの足の付け根、耳や目の周りなどにマダニがついていないか、よく確認しましょう。
ブラッシングをすると、毛の奥に隠れているマダニも見つけやすくなります。

ペットにマダニがついていたら･･･



マダニがしっかりと食い込んでいる場合は、獣医師に除去してもらいましょう。
無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させて病原体が体内に入りやすくしてしまう恐れがあります。

！ 動物が体調不良の際には、マスク、手袋などを着用し、咬まれたり舐められたりしないように注意したうえで、動物病院で診てもらってください※。マダニに刺されないよう、ダニ駆除剤も有効ですので獣医師に相談しましょう。

※動物の血液や体液(血液、唾液、嘔吐物、尿、便など)が傷口、目や口などの粘膜に付着した場合には、SFTSウイルスに感染する可能性があります。）

【参考】重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するＱ＆Ａ(第９版　令和８年10月７日作成)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html

スズメバチタマセンチュウ

怖がられることの多いスズメバチですが、そんなスズメバチにも天敵がいます。その一つがスズメバチタマセンチュウです。

センチュウ（線虫）とは、線形動物門に属する動物の総称で、細長い形が特徴的な生き物のことを言います。

スズメバチタマセンチュウは、乳白色で細長く、体表に多数いぼ状突起をもつ寄生虫です。土壌や枯れ木の中に生息し、越冬中のスズメバチ女王に感染します。スズメバチタマセンチュウはスズメバチ体内で成長・産卵し、孵化した幼虫は発育後に宿主の腹部から脱出します。この寄生により、感染した女王バチは卵巣が発達せず不妊化することが知られています。

また、スズメバチのなかでも、キイロスズメバチ、オオスズメバチ、チャイロスズメバチ、ヒメスズメバチ、モンスズメバチに寄生することがわかっています。



オオスズメバチ



スズメバチタマセンチュウ
体長は約20mm
※イラストです





センターでは過去に越冬中のスズメバチ女王を捕まえ、周囲の枯れ木くずを掃除している時にセンチュウを発見したことがあります。

残念ながら、スズメバチタマセンチュウかまではわかりませんでした。

センターからのお知らせ

外来種のハゴロモ

当センター敷地内では様々な昆虫が生息し、名古屋市内でも屈指の昆虫相を形成していますが、最近は外来種の存在も目に付くようになりました。

代表的なものがチュウゴクアミガサハゴロモです。名前の通り、中国原産です。体長は約15mmです。敷地内の草木にとまっていたり、クモの巣にかかっているのをよく見かけます。チョウやガのように見えますが、カメムシに近い仲間で、植物の汁を吸うので農業害虫として扱われます。在来種より広い食性を持ち、様々な植物に被害を与えます。近年、多くの地点で生息が確認されているようです。



チュウゴクアミガサハゴロモ

『感染症対策・調査センターだより』は、名古屋市公式ウェブサイトで創刊号からご覧いただけます。
「感染症対策・調査センター」で検索していただくか、右のＱＲコードをご利用ください。